

2017年1月17日
リンクウィズ株式会社
株式会社産業革新機構

産業革新機構はリンクウィズ株式会社への出資を決定

- ・産業用ロボットの知能化を実現するソフトウェア開発ベンチャー企業に出資
- ・独自アルゴリズムを駆使した産業用ロボットの自立型制御を実現
- ・労働力不足の中小企業への産業用ロボット導入をサポート

株式会社産業革新機構（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英、以下「INCJ」）は、産業用ロボットの知能化を実現する三次元制御システムソフトウェアの開発・販売を行うリンクウィズ株式会社（本社：静岡県浜松市、代表取締役：吹野豪、以下「リンクウィズ」）に対し、同社の新たな事業展開を推進するための資金として、4億円を上限とする出資を行うことを決定しました。

また、SMBC ベンチャーキャピタル株式会社も同社への出資を決定しています。

産業用ロボットは、現在、多くの生産現場に導入されていますが、単純作業の反復など大量生産体制を前提としたものが中心で、かつ、ロボットに対し事前に動作を教えなければならぬためコストも継続的にかかります。そのため、導入先は大企業が中心であり、労働力不足が深刻な中小企業への導入は限定的なものとなっています。

2015年に設立された「リンクウィズ」は、そのような産業用ロボットの使い勝手を格段に改善し、知能化を実現するための制御ソフトウェアを開発・販売するベンチャー企業です。同社の制御ソフトウェアは、形状処理 AI と独自の形状認識アルゴリズムを備えており、産業用ロボットに最適化された三次元計測・解析・制御が強みです。具体的には下記のような特長を持っています。

- 1) 2D レーザーセンサと形状解析プログラムによりロボットへの事前学習を大幅に削減
- 2) 作業毎に対象物の形状を確認し、誤差を自立補完することで高品質作業を実現
- 3) どのメーカーのロボット・センサとも組み合わせが可能であり、導入が容易

「リンクウィズ」では、既に大手自動車メーカーに対し、溶接位置補正ロボットシス

テムや製品検査ソフトウェアなどのカスタマイズ製品の納入実績があります。今後は、汎用向けの基本ソフトウェアパッケージの開発を行い、さらに中小企業向け簡易版ソフトウェアパッケージの開発を行うことで、これまで産業用ロボットの導入が困難だった中小企業への導入を容易にします。また、製造現場における Industry4.0 の実現に向けて、様々な分野の大企業との連携も進めていきます。

INCJ としては、産業用ロボットの導入が容易になることで、生産ラインの効率化や高付加価値化に加え、中小企業の製造業現場での深刻な労働力不足解消への貢献が期待されること、また同社が目指す生産工程データのクラウド化は、工場での生産工程改善のみならず、製品の設計、部品の調達などの企業経営戦略にも大きな影響を与える可能性が期待でき Industry4.0 の実現に資することから、今回「リンクウィズ」に資金を提供するとともにハンズオンの支援を行うことを決定しました。

リンクウィズ株式会社

設立 2015年3月
事業内容 インテリジェントロボットシステムソフトウェアの開発・販売
技術コンサルティング
所在地 静岡県浜松市
代表取締役 吹野 豪
URL <http://linkwiz.co.jp>

株式会社産業革新機構（INCJ）について

INCJ は、2009年7月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約2兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJ は、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

以上

<本発表資料のお問い合わせ先>

株式会社 産業革新機構 企画調整 Gr. 広報 入江、坂井
東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビルディング21階
電話：03-5218-7202 URL：<http://www.incj.co.jp/>